

# あそび あそび

2011.2  
No.44

■事務局 / 名古屋市立楠西幼稚園  
〒462-0061 名古屋市北区会所町82-1  
TEL (052) 902-2250

■発行者 / 愛知県幼児視聴覚教育研究会  
会長 鈴木 照美



神の倉清涼保育園  
5歳児

- 「想像と創造、子どもの感性に寄り添って…」  
～廃材遊びを通して、保育者の援助や環境のあり方を探る～
- 第48回東海北陸地方放送教育研究大会 報告  
第42回愛知県放送教育特別研究会 報告
- 第42回愛知県幼児視聴覚教育研究大会 報告
- 第43回愛知県幼児視聴覚教育研究大会 案内



第48回 東海北陸地方放送教育研究大会

第42回 愛知県放送教育特別研究会

# 未来を拓く学びの場を創造しよう

研究部会「感じる心を育てる」

日時 平成22年8月20日(金)

会場 ウィルあいち

## 提案1

### 「イメージを膨らませて、遊びを創り出す 楽しさを味わう」

豊橋市 明照保育園 村田奈美

日ごろから保育の中で廃材遊びに取り組んでいる。廃材が子どもたちにとって、より身近な存在となり、友達と一緒にイメージを膨らませたりすることができるように、NHK「つくってあそぼ」の番組を視聴してきた。視聴による子どもたちの思いを保育士が丁寧に受け止め、援助し、適切な環境設定を図ることで、自分なりの工夫を楽しみ感性の高まりにつながった。



## 提案2

### 「自ら心を動かし、 生き生きと生活する子をめざして」

静岡市立清水高部幼稚園 杉山順子

友達と認識を共有し内容の理解を深めたり、共通のイメージを広げる上で視聴覚教材の活用は有効であり、仲間との協同活動のきっかけの一つになった。仲間と共感し合う生活や遊びの中で、自分の思いや表現を認められる経験を通し、自信が育まれていった。また、映像を見ただけで経験したと感してしまう子どももあり、映像で見たことと実体験を結びつけていく大切さを感じた。

## 助言

### 宇都宮 美智子 (中村保育園) 杉田 光子 (静岡市立清水小島幼稚園)

- 保育の中の視聴覚教材の位置づけを考慮する。
- 子どもの変容を次にどうつなげていくかが大切である。
- 視聴覚教材は保育者自身の感性を育てるための有効な手段と考えられる。





# 「想像と創造、子どもの感性に寄り添って…」

～廃材遊びを通して、保育者の援助や環境のあり方を探る～

愛知県幼児視聴覚教育研究会では、今年度、子どもの想像力と創造力の育ちを見つめ、保育者として何を大切にすべきかを明らかにするために、保育環境のひとつである廃材遊びを通して研究を進めた。



## I. 研究会での話し合い

- 廃材遊びについて各園の実践事例を持ち寄り、環境構成や保育者の援助、子どもの様子などを話し合った。
- 牛乳パックやゼリーカップなど、子どもの身近にあり、家庭からも集めやすい廃材は、好ましい保育材料といえる。また、形や使い方をいろいろと変えることは、子どもにとってとても刺激的で、どんなものになるのかとワクワクしながらイメージを膨らませる様子が見られる。
- そこでの子ども達の想像と創造の育ちには、保育者の援助や環境のあり方が大きく関わっていると思われる。また、想像を膨らませるきっかけとして、放送などの環境がどう活かされていくか、実践を通して深めていった。

## II. アンケート調査

8月に行われた、愛知県放送教育特別研究会での『感じる心を育てる部会』研究の際に、廃材を取り入れた保育についてのアンケート調査を行った。

地域性や方針による違いがあるものの、  
保育環境のひとつに廃材を活用しているのは  
ほとんどの園で定着していた。

## III. 実践事例

### 廃材遊びを取り入れている園で、 保育活動の中に放送視聴を取り入れてみた。

◎子どもに見せる前に、保育者で『つくってあそぼ』の事前視聴を行ったところ、番組の廃材遊びのアイデアが豊かで、子ども達の大きな刺激や意欲になることと同時に、一緒に見る友だちと交流し合う楽しさが得られることを実感した。

◎子ども同士で『つくってあそぼ』を視聴  
「むずかしそ～」「やってみたい!」

◎遊びの深まり



初めのうちは番組の内容をまねて楽しんでいましたが、視聴を重ねるうちに、視聴しなくても身の回りのさまざまなものにイメージを膨らませて「遊び作り」を楽しむ子どもの姿が見られるようになってきた。保育者にとっても子どもと視聴活動を重ね、遊びを展開していくことで、子どもへの言葉かけや関わるタイミングなど、援助のあり方を学ぶことができた。

## IV. まとめ

「廃材」の捉え方は人によって違うかもしれない。「廃材」を広辞苑で調べてみると「使い道がないとして捨てられた材料のこと」とある。大人の感覚ではゴミの扱いになってしまう。しかし、いわゆる廃材も子どもたちにとっては使い道がないわけではなく、遊びの材料として十分に楽しめるものになる。放送を利用することは、子どもたちのみならず保育者にも刺激が与えられる。保育者の感性を活かして子どもたちに働きかけ関わる中で、子どもたちと保育者がともに感性を豊かにしていけるのではないかと感じる。今年度の研究を通して、普段から親しんでいる廃材遊びの良さを見直し、子どもの想像と創造の育ちを高めるための保育者の感性や援助のあり方を考えるきっかけとなった。